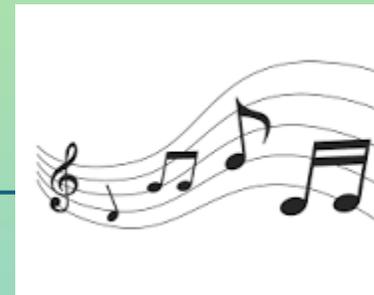


音に触れる

Picoナーサリ和田堀公園
幼児クラス



テーマ：音に触れる



【テーマ設定する】

カリキュラムの中にリトミックを取り入れたり、クリスマスコンサートを通じて楽器遊びや音に親しんでいるものの、子どもたちが自由に、好きなように…という環境ではなかった。楽器以外の音に触れたり、日常の身近にあふれている音にも着目したり、子どもたちの自由な発想や表現の幅を増やしたり、より身近に感じられるように設定した。

【活動スケジュール(幼児クラス)】

活動内容		回数	人数
①	音に触れてみよう	20分程度	6人
②	いろいろな楽器の音・オーケストラに触れる	30分	全員参加
③	様々な楽器に触れてみよう	45分	自由参加
④	楽器を使ってみよう！！	1時間程度	5人



すくわくプログラム①

～音に触れてみよう～

【環境をデザインする】

- ・3歳児 5人ずつ 好きな楽器に触れ、好きなようにならしてみる。

【子どもの様子】

- ・最初は緊張した様子もあったが、ならしてみたい、触れてみたいという気持ちから、1度楽器に触れてみると、夢中になって鳴らす姿が見られた。
- ・「いい音ができるね！」と自分の鳴らした楽器を気に入り、遊び続ける姿があった。

【振り返りを踏まえた気づき】

- ・後半は子ども同士で合わせてみたり、思い思いに鳴らしたりして、楽しむ姿が見られた。
- ・楽器を部屋に常設してみるのも楽しいと感じた
- ・すぐに楽器を常設してみると、子どもたち同士「楽器しよ！」と声をかけ、楽しく鳴らし合う姿が見られている。

(写真参照)



～すくわくプログラム②～

テーマ：音「いろいろな楽器の音
～オーケストラに触れる～」

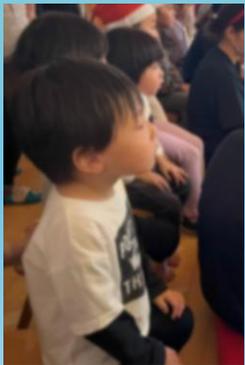
【環境をデザインする】

○楽器の演奏を聴く
オーケストラ所属の方に実際に来ていただき
生演奏を聴く。



【子どもたちの様子】

「キレイな音だった！！」「聞いたことがない音だった。」
「やってみたいと思った。」
「どうやって音が鳴っているのか不思議だった！」
演奏にひきこまれ、多くの児が集中して見ていた。



【振り返りを踏まえた気付き】

- ◎楽器演奏を聴いている際、子どもたちの目はキラキラと輝いていた。
- ◎集中も続き、惹きこまれていることが伝わってきた。
- ◎実際に「楽器の音」に触れ、聴いてみることで、楽器への興味を口にする子がたくさんいた。
- ◎やってみたい！という気持ちや触れてみたいという、憧れの気持ちを持つことが姿があった。
- ◎実際に触れる機会が作っていただけると感じた。
- ◎設定の時間が少し長いのかと思ったが、どのクラスの児もよく見ていた。
- ◎本物に触れることの大切さ、経験も大切だと感じた。

～すくわくプログラム③～

テーマ：音「好きな楽器に触れてみよう」

環境をデザインする

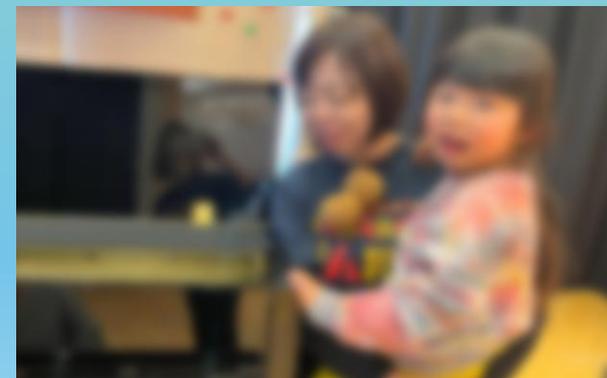
【いろいろな楽器に触れてみよう】

- ・子どもが興味を持った楽器に触れられるようにする。
- ・いつもとは違う楽器・親しみにのある楽器どちらも準備しておく。



振り返りを踏まえた気付き

- ・楽器を自由に選び、遊べる環境が作れずにいたが、選んで好きな楽器に自分がやりたいときにできる環境を今後もデザインしていきたい。
- ・普段、触れている楽器にも興味を持ち、ピアノはどうやって音が出るの？という疑問も聞かれたので、ピアノの中をのぞくと、興味深そうにしばらく眺めていた。楽器がどのように音が出るのか興味を持つきっかけにもなる。
- ・音がなった、自由に音を奏でることができることに笑顔が多く見られ、子どもの豊かな表現に触れる楽しさを感じた。
- ・楽器が苦手な保育者もいるが、～しないと…という思いでなく、楽しく鳴らしていいのだとこの取り組みから感じた。



「子どもたちの様子」

- ・初めて触れる楽器には興味はあるが、緊張もあり、様子を見ている児や他の子に勧める姿が見られた。
- ・友だちの様子を見て、自分もやってみたい！という児が増えた。
- ・実際に音が出ると、表情が明るくなり、「音が出たよ！」と嬉しそうに話す姿がある。
- ・1度音が出て満足する児もいれば、「もう1回やりたい！！」と繰り返し楽しむ児もいる。

すくわくプログラム④

～楽器を作ってみよう～

【環境をデザインする】

実際に楽器に触れることで、ピアノの仕組みを知った5歳児。「自分たちで作ってみよう！」とカプラを使ってピアノ作りを試みる。

【子ども様子】

ピアノの鳴るしくみを知り、自分たちから作ってみたいと声がる。1時間くらい作り上げる。

【振り返りを踏まえた気づき】

- ・協力し、仕組みを確認しながら、じっくりと5人で作り上げていた。
- ・ピアノが出来上がると、自分たちで楽譜まで作り、楽しむことができた。
- ・1週間ほど取っておき、友だちに仕組みを説明したり、積木と積木がぶつかりあうことで音が鳴ることを説明する姿があった。
- ・友だちや他クラスの児に「すごい！！」・「本物みたい！」と言われることで嬉しさを感じたり、楽器に限らず、様々なものの「仕組み」に興味を持つきっかけとなった。カプラで作るビー玉転がしなど、さらに複雑なものができたり、仕組みを考えて遊ぶ姿が出てきている。

